

(5) 専門医教育の立場から

廣江道昭 加藤規弘*

PROPOSALS FOR ADVANCED CARDIOLOGY FROM THE VIEWPOINT OF PROFESSIONAL EDUCATION

Michiaki HIROE and Norihiro KATO*

国立病院・療養所の独立行政法人国立病院機構への変革や医療政策の変化など激しいパラダイムシフトの時代に突入している。そのために国立病院等総合情報ネットワーク (HOSPnet) の再構築, 国立病院政策医療ネットワークの整備に合わせて, 医療情報システムに関する研究開発が必要となってきている。

循環器領域でも, 独立行政法人国立病院機構とナショナルセンターとの密なる連携を目的とした組織・体制の構築によって, 特化された高度先進医療の実践・普及のみならず医療・診療技術の標準化の必要性に迫られている。本稿では, 循環器専門教育の立場から「循環器疾患の最新先進医療—ナショナルセンターとの連携—」について論じることとしたい。

循環器疾患の最新先進医療の現状と問題点

現在, 虚血・不整脈・心不全に対して心エコー, CT, MRI, 核医学 (SPECT, PET), 電気生理学的検査など検査や機器の進歩により著しく治療戦略が変遷してきた。とくに, PCI, アブレーション, ICD, 両室ペースティングなど技術的にも非常に高度な最新先端医療が日常的になされている。さらに細胞・遺伝子工学などの基礎研究の発展・導入により ASO や虚血性心筋症に対する画期的な血管新生療法が開発・実践され, 今では遺伝子療法も登場し, 臨床の場でも応用されている (図1)。このように基礎医学や分子生物学・工学の急速な発展によって開発された新検査法や先駆的治療法に対して理論的・臨床的背景や意義を十分に理解できる専門教育体制の確

立が求められている。一方, 循環器疾患の薬物治療に関して, 欧米諸国では EBM (evidence-based medicine) に基づいたグローバルスタンダード医療がすでに適応されているが, 本邦では EBM なる概念の理解やその必要性が叫ばれるようになり, やっと開始されているのが現状である。例えば, 大規模臨床試験として J-SAP (冠動脈疾患に関する薬物・PCI 治療の予後とコスト), J-CHF (慢性心不全における β -遮断薬による治療), J-WIND (虚血・再灌流における心筋保護), J-DHF (拡張機能性心不全の治療), J-RHYTM (心房細動の治療) が現在進行中であるが, それらの成果が待たれる。さらに1次・2次予防的な見地から, 心血管疾患の主

循環器疾患の最新先端医療の推進

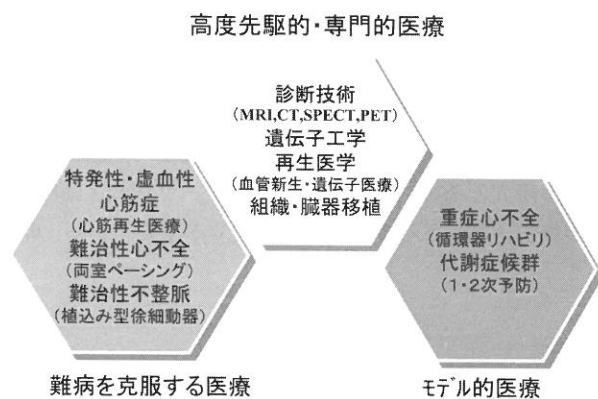


図1 循環器疾患の最新先端医療の推進

国立国際医療センター International Medical Center for Japan 腎・循環器科 第一専門外来部長

*国立国際医療センター 研究所 Research Institute, International Medical Center for Japan 遺伝子診断治療開発研究部長

Address for reprints: Michiaki Hiroe, Nephrology & Cardiology Division, International Medical Center for Japan, 1-21-1, Toyama, Sinjuku 162-8655 JAPAN

e-mail: mhiroe@imcj.hosp.go.jp

Received August 17, 2004

Accepted October 15, 2004

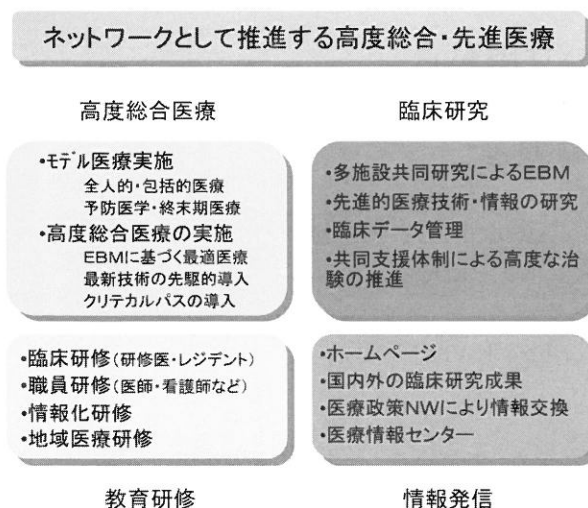


図 2 最新先進医療を推進する医療体系

な原因となる高血圧・糖尿病・高脂血症・肥満など所謂、生活習慣病—代謝症候群が重要な研究課題になっている。現状ではおのおの、高血圧学会、脂質学会、内分泌学会などが中心となり EMB に基づく治療指針が提供されているが、診療体系は関連臨床科での連携体制が整っていないため統合的・包括的に提供する、質の高い全人的医療がなされていない。

循環器疾患の最新先進医療の近未来計画

まず独立行政法人国立病院機構とナショナルセンターとの強力なネットワーク体制を確立し、高度総合医療の立場から、臨床研究、教育研修および情報発信などが重要であると考えられる(図2)。臨床研究では、多施設共同研究による EBM の推進・確立、先進的医療技術・情報の研究とそのために必要な臨床データ管理・臨床試験の指導体制(例えば J-CRC) の設立が重要である。専

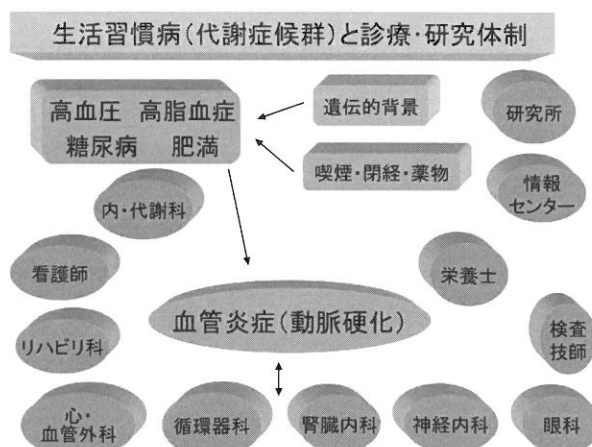


図 3 生活習慣病(代謝症候群)と研究・診療体制

門教育の立場からはネットワークを活用する教育研修制度(人的交流の推進, 研修会の定期的設定など)を進めることによって可能となる。例えば、生活習慣病(代謝症候群)の研究・治療戦略として(図3), 1) トランスレーショナル研究としてゲノム情報による診断・予防法の確立, 遺伝子治療・再生医療など先駆的治療法の開発と臨床応用, 2) 医療情報センター設立, 3) 高度先進医療を広く展開するための「モデル臨床システム」の開発・整備などが近未来的な臨床研究プロジェクトとして提言できる。

おわりに

「循環器疾患の最新先進医療—ナショナルセンターとの連携」の意義・未来像について専門医教育の立場から述べたが、早期のネットワーク作りが重要な課題である。

(平成16年8月17日受付)

(平成16年10月15日受理)